

■トラック2 脱ぎたてむれむれの靴にどっぷり

「脱ぎたてむれむれの靴にどっぷり」...ですね。

...ご主人様って、足フェチなんですか？

それとも匂いフェチですか？

まあ、どっちでもいいですけど....。

女の子の足の匂いが染み込んだ靴を器にして、ふたなりミルクを飲みたいって...相当な変態なのは間違いないですよ。

では、そんな変態ご主人様には、私のミルク搾りを手伝っていただこうと思います。

私はこの椅子に座りますので、ご主人様は私の足元に座ってください。

...はい、床にです。

出来ませんか...？

// あなたは床に座る

はい、そこでいいです。

ふふっ....。

まるで”おすわり”を命じられた犬のようですね。

では、従順なご主人様にご褒美です。

靴、脱ぎますね。

// ゆりは両足の靴を脱ぐ

これが...この靴が、今回ご主人様に飲んでいただくミルクを入れる器です。

せっかくの脱ぎたてですから、匂いを楽しんでみてください。

// あなたは、ゆりの靴の匂いを嗅ぐ

ふふっ....。

本当に嗅ぐんですね....。

毎日履いてたくさんの汗を吸った靴の匂いはいかがですか...？

そんなにうっとりして...やっぱり、匂いフェチの変態じゃないですか....。

そんな変態ご主人様には、きっと嬉しい仕事がありますよ。

私の足を、舐めてください。

上手に舐めて、私のオチンポを勃起させることができれば、その靴にミルクを注いで、飲ませて差し上げます。

さあ...靴下は脱いでありますから、ご主人様の舌で、たくさん舐めてください。

// あなたはゆりの足を舐める

んっ...ん...はあ....。

もっと舌全体を、足の裏にくっつけて...汚れを全て舐め取るように...。
ん...そう、です...。
ご主人様、結構スジがいいですね...。
足舐めの才能、あるんじゃないですか...？

くすっ...。
何の役にも立たない、最低な才能ですけど...。

あ...んっ...。
ん... はあ...あ...は一...。

ご主人様...見てください...。
私のスカートが、少しめくれてきました...。
オチンポが立ってきたってことです。
ん...その調子でもっと、ん...舐めてください...。
指の間も、お願いします。

// あなたはゆりの足指を丹念に舐める

あ...あ...ん、う...はあ...。
いい、ですよ...ん...ん...。
舌がねっとり、足の指に絡みついてくるみたいな動き...ん...気持ちいい、です...。

ん...は一...。
あ...ん...は一...。

私、足舐められるの、弱いんです...。
そんな風に、いやらしく舌を這わされたら簡単に...んっ...ん...オチンポ、勃起しちゃうんです...。
あ...ん...んっ...はあ...。
もう、いいですよ...足舐めはおしまいです。

// あなたは舐めるのをやめる

ほら、もうすっかり大きくなりました...。
ご主人様の大好きな、極太オチンポですよ...。

ふふっ...そんなに見とれちゃって...。
早くミルクが飲みたいんですか...？
なら、もっと私のことを興奮させてください...？

ご主人様...。
さっきから膨らんでるそのズボンの中...私に見せてください。

いいんですよ。
これは常連向けの特別コースですから...許可します。
ほら早く...見せてください...。

// あなたはチャックを下ろして自分のペニスを露出する

あ...くすっ...

それが、ご主人様のおちんちんですか...

私のものと比べると、ずいぶん小ぶりで可愛らしいですね...

それ、踏んで差し上げましょうか。

ふふっ...おちんちん、ピクって動きましたね。

されたい、ということで...構いませんね...?

では、失礼します。

// ゆりはあなたのペニスを優しく踏みつける

ん...んっ...んっ...

足の裏に、ご主人様の熱が伝わってきます...

ずいぶん熱いですね...

私の足を舐めて、そんなに興奮したんですか...?

ふふっ...変態。

でも、ご主人様がどれだけ勃起させたとしても、私のオチンポには、かないませんよ?

ほら、よく見てください。

血管が浮き出るほどバキバキに勃起しています...

この間、オチンポの健康診断があったんですけど、また少し大きくなったんですよ。

長さが30センチから31センチになって...太さが5.8センチから6センチになりました...

私、見ての通り低身長で、よく中学生に間違えられるんですけど...こっちの発育は、まだまだ止まらないみたいなんです...

ご主人様のおちんちんは、もうそれ以上大きくならないと思いますけど...

くすっ...

同じ”オチンポ”なのに、こんなに差があるんです。

ご主人様のものは、小さくて可愛い、お飾りのおちんちん。

私のは、長くて太くて立派な、繁殖能力の高いオチンポです...

どちらが生物的に優れているかは、おわかりですよ。

なのでご主人様は、その役立たずおちんちんを必死に勃起させてください。

女の子の足に欲情する、みっともなく可愛い姿をたくさん見せてください。

私、ご主人様の情けない姿を見ると興奮して、この大きな金玉がきゅんきゅん疼いて、おいしいミルクをたくさん出すことが出来るんです...

ほら、もっとたくさん踏んであげますから...

ふみ、ふみ...ふみ、ふみ...

女の子の小さい足で、おちんちんを踏みつけられるのは興奮しますか...?

ふふっ...

こんな変態な行為で欲情しているご主人様を見ていると、ゾクゾクします…。
ほら…私のオチンポ、先っぽから、とろお…って我慢汁が溢れてきました…。

ご主人様を踏みつけながら、このおつゆを使って、オチンポをシコシコしますね…。

// ゆりは我慢汁をペニス全体に塗るように、ゆっくりしごく

まずは両手を使って…あふれた我慢汁を、オチンポにぬっていきます…。

んっ…ん…。
ぬるぬるして、気持ちいい…。
ん、んっ…ん…はあ…。

こうやって、根本から少し強めにこすると…んっ…。
どんどん我慢汁が溢れてきて…こんなに大きなオチンポも、あっという間にぐちょぐちょになる
んです…。

ほら、もうこんなに…んっ、んう…はあ…。

私の手が上下に動くたびに、ぐちゅ、ぐちゅって音がするの、聞こえますか…？
これ全部、私のオチンポから出たぬるぬるの音です…。
多分もう、ご主人様の射精一回分よりたくさん出てます…。

くすっ…。
それに比べて、ご主人様のおちんちんはどうでしょうか…？
私の足にふみふみされて、多少のぬるぬるは出てますけど…。
でもこれじゃ、潤滑としては不十分ですね。

我慢汁、もっと出せないんですか？
ぬるぬるの方が絶対に気持ちいいのに…かわいそうですね…。

ふふっ…。
憐れまれてるのに、どうしてそんなに嬉しそうなんですか？
大人のくせに、子供みtainな見た目の女の子に同情されて喜んじゃうんですか？
…本当にかわいそうですね。

仕方ないので、私の我慢汁を分けてあげますよ。
こうやって搾れば…いくらでも出ますから…。

// ゆりはペニスをしごいて我慢汁を出し、あなたのペニスに垂らす

んっ…ん…。
はあ…あ…んっ…。

はい…これでご主人様のおちんちんもヌルヌルです。
よかったですね。

せっかくなので、両足で挟んでシコシコしてあげましょうか。

こんな風に…。

// ゆりはあなたのペニスを足でしごく

んっ…ん…少し、難しいですけど…足の裏でサンドして…しこ、しこ、しこ、しこ…。
くすっ…。

ぬるぬる、気持ちいいですか？

それ、私の我慢汁ですよ。

ご主人様が今気持ちよくなれているのは、全部私のおかげです。

感謝してくださいね。

では…私もオチンポしごき、再開します…。

// ゆりは自分のペニスをゆっくりしごく

んっ…んっ…んっ…あっ…。

はあ…ん…足を動かしながらシコシコするのは、少し難しいですね…。

でも、んっ…。

足の裏でご主人様のおちんちんを感じながらオナニーするのは…んっ…少し、興奮します…

んっ…あ、んっ…。

オチンポ、いつもより敏感で…んっ、あっ…んっ…。

ミルクの準備、そろそろ出来たみたいです…。

はあ…んっ…はあ、はあっ…。

せっかくの特別コースですから…とびきり濃くて美味しいミルクを出しますね…。

…といっても、器は私の靴ですけど…。

あ…おちんちん、ビクってしました…。

靴に出されたミルクを飲むところを想像して、興奮したんですか…？

ほんとに変態ですね…。

あー、こら…ご主人様っ…勝手に腰動かしちゃだめですよ。

動いていいのは私だけです。

ご主人様のおちんちんをしごくのも含めて、これは私のオナニーなんですから…。

そうです…私は今、ご主人様のおちんちんを足でこすって、興奮してるんです…。

私よりもずっと年上のご主人様を、足元に座らせて、おちんちんを露出させて、それを踏みつけて遊んでるんです…。

こんな変態行為で喜んでるご主人様を見ていると…オチンポと金玉がゾクゾクして、あっという間に濃厚なミルクが溜まっちゃうんです…。

んっ…あ…ほら…もう出ちゃいそうになってます…。

はあ…ん…。

ではそろそろ、お待ちかねのミルク搾りを行います…。

おちんちんで遊ぶのは一旦やめるので…。

// 足コキをやめる
// オナニーは続ける

ご主人様。
私が脱いだ靴を、オチンポの前に持って来てください。
二足とも、ですっ…。

// あなたはゆりの靴を両手で捧げるように持つ

はい…ありがとうございます…。

ではこのまま、ミルクが出るまで本気でシゴきますっ…。

// ゆりはしごくペースを上げる

んっ、んっ、んっ、はっ…あ、んっ…。
ご主人様っ…私が射精する瞬間、ちゃんと見ていてください…。
この極太のオチンポから…んっ…びゅるびゅる～って、どろどろのミルクが噴き出しますからっ
…あっ、んっ、んうっ…♡

はっ、あっ…んっ、んっ…♡
あああ…出ますっ…ご主人様っ…心の準備を、お願いしますっ…。

はっ、はっ、はっ、あっ…んっ、いくっ…んっ…。
いくっ…いく、いくっ、いくっ…！

んっ…あああっ♡

// ゆりは射精する
// 精液は、あなたが手に持った靴の中にびゅるびゅる吐き出されていく

あっ…んっ、おっ…おおお…出てますっ、んっ…。
濃いのが、びゅるびゅる～って、たくさんっ…♡
あっ…おっ…あああ…靴の中、もういっぱいになって…んっ…。

はっ…あっ…んうっ…反対の靴にもっ…んっ…♡

おっ…お…んっ、はあああっ…気持ちいい…気持ちいいですっ…。
はっ…んっ…おおっ…射精、とまらないっ…あああ…すき…気持ちいいっ…。
んっ…んっ…はっ…ぐっ…ぐ、おおお…。

はあっ…あっ…はああ…。
ふー…んっ…ふー…。

はー…はー…。
んっ…はー…はー…はあ…。

全部、出しましたよ…。

さあ...ご主人様...。
私の出したて特濃ミルク...お召し上がりください。

靴のかかとに口を添えて、一気にどうぞ...。

// あなたは、靴に出された精液を飲む

ふふっ...靴に出した私のミルク...本当に飲んでる...。
美味しいですか...ご主人様...？

...おかわりですか？
もう一足分残っているので、そちらもどうぞ...。

...そんなに美味しそうに飲んでいただけると、私もたくさん出した甲斐があります。

...はい、お粗末様でした。

くすっ...。
そんなにとろけたお顔になって...。
よほど興奮したんですね...。

ご主人様のおちんちん、反り返ってますよ...？

それ、抜いてしまいますか？
そうですね...では、こうしましょう。
私の靴、返してください？

// あなたはゆりに靴を返す

この、ミルクまみれになった靴に、両足を入れて...。
うわっ...ぬるぬるで気持ち悪い...。

でもこれで...。

// 靴を脱ぐ

はい...オチンポミルクでヌルヌルの、足オマンコが完成です。
ご主人様...。
私のここにおちんちん入れて、好きに腰振っていいですよ。

ほら...立ち上がって、もっとこっちに来てください。

// あなたは立ち上がる

そうです...。
そのまま、私のぬるぬる足おまんこに、頑張って大きく見せようとしてるおちんちんを、にゅるっと入れちゃってください...。

// あなたは、ゆりの足の間にペニスを挿入する

んっ...。

ふふっ...入っちゃいましたね。

あーあ...そんなに興奮して...。

いいですよ。

好きに腰振って気持ちよくなってください。

// あなたは激しく腰をふる

あっ、あ、んっ、あっ...。

いきなり、激しいですねっ...んっ...。

あっ、んっ、んっ...ちょっと、くすぐったいですっ...んっ、んっ...。

くすっ...もう射精のことしか考えられないですか？

私のオチンポミルクを飲んで、発情しちゃいましたか？

でもそれ、ただの足ですよ。

ご主人様は、女の子の足の間におちんちんを出し入れしてるんです。

分かってますか？

んっ...はあっ...。

分かってるから余計に興奮してるんですね...くすっ...変態っ...。

いいですよ、そのまま出しちゃってください...。

あっ、あっ、んっ...あ、んっ...。

ふふっ...出ますね。

わかりますよ...同じもの、ついてますから...。

いってくださいっ...私の足の中で、気持ちよくぴゅ～って出しちゃってください...。

はあ、んっ...はっ、はあっ...。

いけ、いけ、いけ、いけっ...。

// あなたは射精する

ぴゅっ、ぴゅっ、ぴゅ～...。

ぴゅっ...ぴゅるっ...ぴゅう～...。

ふふっ...出しちゃいましたね...。

それで全部ですか？

やっぱり少ないですね。

女の子の小さい足を汚して、大満足って顔してますね。

ほんと変態...。

でも、楽しかったですよ。
ご主人様の変態なところ、たくさん見られて…。

またいつでも注文してください…。
その時は、マゾなご主人様がもっと喜ぶこと、してあげますから。

ふふっ…。

■トラック2 了